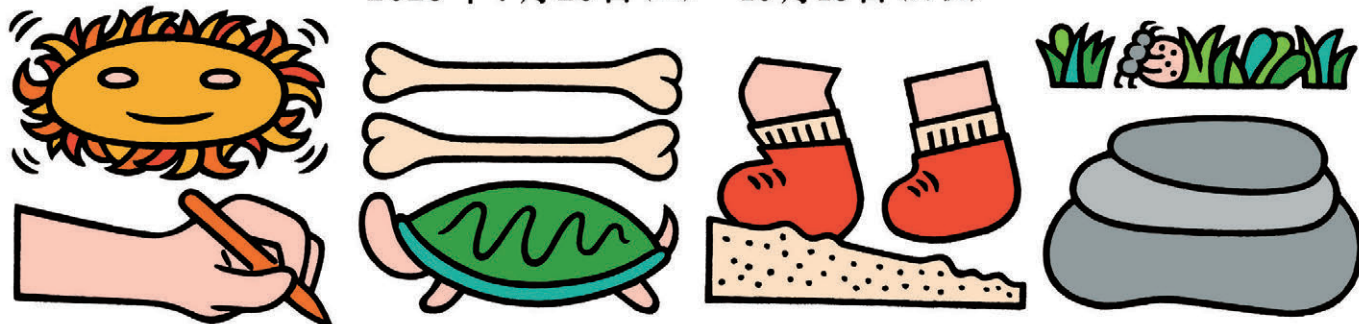




こつこつこつと手さぐる 展 こつこつ

2025年7月26日(土)～10月13日(月祝)



「こつこつと続けること」をテーマに、7組の作家を紹介します

展覧会概要

「こつこつと手さぐる」

会 場：はじまりの美術館（福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873）

会 期：2025年7月26日（土）～10月13日（月・祝）10:00～18:00

※火曜休館

※9月23日（火）は開館、9月24日（水）は振替休館


料 金：一般 500 円、高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方および付添いの方（1 名まで）無料

出展作家：安斎隆史＋支援員、入江早耶、小野サボコ、櫛田拓哉、栗原巳侑、似里 力、渡辺孝雄

主催：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館

協力：unico、社会福祉法人光林会、社会福祉法人みぬま福祉会

後援：福島県、福島県教育委員会、猪苗代町、猪苗代町教育委員会、あさかホスピタルグループ

お問い合わせ先：  はじまりの美術館（広報担当：大政 企画担当：小林）

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873

TEL：0242-62-3454

FAX：0242-23-8185

Mail：otoiawase@hajimari-ac.com

展覧会コンセプト

みなさんはこつこつ続けていることはありますか？

たとえばダイエットや貯金のように少しずつ目標に向かって積み重ねていくものや、英会話やスポーツのように鍛錬することで向上するものがあります。

こうしたルーティンワークのように毎日同じ繰り返しのようなことは、積み上げていくことに没頭することもあるれば、少し単調で退屈なこともあるかもしれません。

こつこつと続けていくことは、楽しく夢中になれるばかりではなく、時には辛さがあり、諦めたくなることもあると思います。それはゴールがあるものなのか、そのゴールに向けて道筋はあるのか。それでもこつこつ続けていく中で、より良いやり方が見つかったり、たしかな手応えを得られたりすることがあることも確かです。

本展では一見小さなことを繰り返し、それをこつこつと続けることで作品を生み出す 7 組の作家を紹介します。作品全体を体感しながら、その細部や工程にも目を向けてみてください。そこには手さぐりながら、こつこつと続けていくためのコツのようなものがあるかもしれません。

この展覧会を通して、手さぐりでも、続けていくことの意義を感じ、みなさまがこつこつと何かを積み上げ、やりがいの豊かさを感じるきっかけになればと願います。

本展の見どころ

1、「こつこつと続けること」をテーマに7組の作家を紹介！

絵画作品から立体作品、インスタレーションなど、作家それぞれが手さぐりでこつこつ積み重ねた作品が展示されます。離れて見たり、近づいて見たりとさまざまな見方で味わうことができます。

2、体験できる作品も展示！

見るだけではなく実際に体験することで、頭と体で展覧会を楽しむことができます。こつこつと積み重ねる行為は思わず時間を忘れてしまうかもしれません。

3、会期中にはイベントやワークショップを開催！

展覧会を企画担当者めぐるギャラリートークや、出展作家によるワークショップも開催します。また、展覧会のテーマをより深めるためのトークイベントも予定しています。

出展作家

安斎 隆史＋支援員 （あんざい たかし＋しえんいん）

1972年福島県二本松市生まれ・郡山市在住。

郡山市内のグループホームに入居しながら、クレヨンや絵の具を使って創作活動に取り組む。表情や身振り、言葉にならない声のトーンなどで表出される感情表現も豊かで、絵を描くこともひとつのコミュニケーションである。楽しみな行事、納得がいかなかったこと。日々の天気や、季節のうつろい。安斎さんの心の動きが色彩となり、大胆なストロークが繊細に重ねられていく。本展では、安斎さんと安斎さんを担当する支援員のコラボレーションによって生まれた《安斎隆史記念美術館》を出品予定。



安斎隆史＋支援員《安斎記念美術館》2024年～

入江 早耶 （いりえ さや）

1983年岡山県生まれ、広島県在住。

2009年に広島市立大学大学院を修了し、現在広島を拠点に活動中。ありふれた日常品に潜むルーツや背後の物語に着目し、新たな息吹を与えることをテーマとしており、代表作として掛軸や写真などの二次元のイメージを消し、出たカスを用いて三次元の立体物に再構築するダストシリーズがある。



入江早耶《摩利支天ダスト》2024年
photo:Yoshihiko Shikada

小野 サボコ （おの さぼこ）

1969年大阪府生まれ、兵庫県在住。

京都精華大学美術学部版画リトグラフ専攻卒業。その後美術講師をしながら、2002年より作品制作を開始する。アジアの少数民族を追いかけて旅をする中で、それぞれの民族の多様性と同時に神秘的なシンクロニシティ（共時性）を見出す。帰国後、2007年より独自の技法でアルミニウム作品の制作を始める。アルミニウムの素材としてのしなやかさに、叩く・削る・押すといった原始的な加工を加えることで繊細な文様とともに普遍的な力強さを表現している。身体の奥に響くような宇宙的で浮遊感や未知なる空を目指して日々活動している。



小野サボコ《命に吠える骸骨》2024年
撮影：北川聡

櫛田 拓哉 （くしだ たくや）

1974年福島県生まれ、長野県在住。

2000年より、五感を育むアートと学びを介在とした造形教室「こどものにわ」を主宰。2011年二本松市において震災支援活動を開始し造形ワークショップを定期的に行う。2013年に放課後のこどもたちの場ふくしまグリーンキャンバスを発足、2014年からNPO法人化。2016年より二本松市より委託を受け学童クラブを運営。現在、都城市立図書館（宮崎県）、福島県立博物館、福島県柳津町放課後子ども教室、学校法人白梅等にてこどもの居場所づくりやアートプログラム、指導者育成、コーディネーターや講師も務めている。

2020年長野県御代田町に移住。稲作をはじめ、家族の他に猛禽類や犬などの動物と暮らしながら、作る暮らしをはじめ、福島県と二拠点生活を送っている。



櫛田拓哉《こどものにわの作り方》2024年

栗原 巳侑 （くりはら みう）

2001年群馬県前橋市生まれ、福島県郡山市で育つ。現在は福島県郡山市在住。

2025年東北芸術工科大学芸術工学研究科修士課程芸術文化専攻複合芸術領域を修了。私たちを取り巻く環境は、絶えず時間の中で変化と消失を繰り返している。その多くが堆積した土に還り、視覚化できない大地の情報として埋没する。私はこの大地が持つ「土地の記憶」に着目し、実際に現地の土や砂鉄を用いて、記憶の可視化を試みている。今は視えないもの、いずれ視えなくなるもの、その姿形を作品として残しつつ、後世に伝えていきたいと考える。

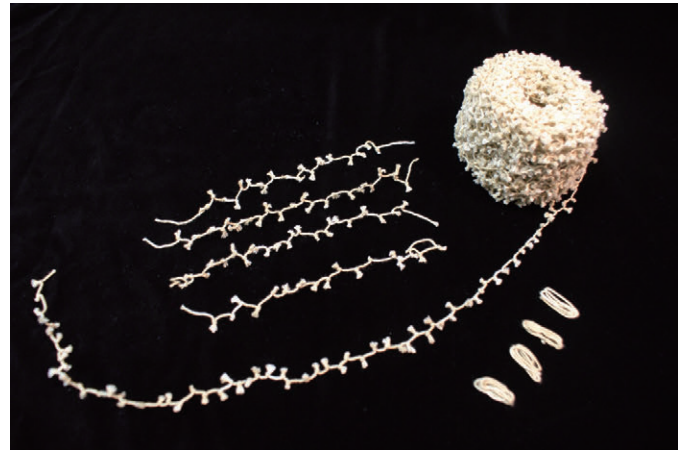


栗原巳侑《silence》2024年

似里 力 （にさと ちから）

1968年岩手県生まれ、在住。

似里さんがこの 17 年余りずっと取り組んでいるのは、糸をハサミで切って、もう一度手で結ぶ。ただそれだけの単純な繰り返しである。気が遠くなりそうなその積み重ねから、美しく愛らしい、そして驚くべき糸の球が出来上がる。もともとは販売用の草木染糸を球状に巻く作業を担当していた似里さん。あるとき、絡んだ糸をやむを得ず一度切っただけ、もう一度結んだことが、彼の中に不思議な喜びの火を灯したようである。そのささやかな出来事が、その後の長い営みの発端となった。当初はこっそり切っては結ぶことを楽しんでおり、糸の商品価値を損なうため職員にとがめられていたが、決してやめることなく自分の意志を貫き続けている。やがて職員が根負けし、晴れて自由に糸を扱うことが可能になるや、恐るべき細かさで大量の結び目を作り始めた。その営みが今日も続いている。



似里 力 《無題（糸玉）》2008 年

渡辺 孝雄 （わたなべ たかお）

1967年埼玉県生まれ、在住。

社会福祉法人みぬま福祉会在籍 30 年以上の大ベテラン。明るくユーモアがあり、「おねえさん可愛いねえ〜」「何年生？」と、来客、道ですれ違った人など気軽に声をかける。渡辺さんは様々な仕事を経て油絵の仕事に辿り着く。描き方は独創的で直接キャンバスに絵具を出し、筆でチョンと触れたりドンと叩くことで、次第に立体的な層を成して行く。入所当時は数秒たりとも座っていられなかったが、今ではしっかりと腰を据え「僕、油絵、描いてる！」と胸を張る。



渡辺孝雄 《untitled》2006 年

・作品をさぐるギャラリートーク

2025年7月26日（土）11:30～12:00、
8月23日（土）・10月4日（土）14:00～14:30

参加費：無料（要観覧料） ※予約不要

はじまりの美術館スタッフと参加者のみなさん等でお話をしながら展覧会をめぐる。

・小野サボコワークショップ「マジカルアートチャレンジ」

2025年7月27日（日）13:00～15:00

講師：小野サボコ（出展作家・美術家）

参加費：2,500円（展覧会観覧料込）

定員：10名 ※要予約

出展作家である小野さんをお招きしたワークショップです。
小野さんの作品の素材である、アルミニウムに紋様をつけて
バッジを制作します。こつこつと好きな形を刻んで、ひかる
丸い鏡の様なオリジナルの自分のお守りを作りましょう。



・入江早耶ワークショップ「超・粘土日記」

2025年8月17日（日）13:00～15:00

講師：入江早耶（出展作家・美術家）

参加費：1000円（展覧会観覧料込）

定員：10名 ※要予約

出展作家である入江さんをお招きしたワークショップです。
粘土を使って、日常の思い出を題材にモニュメント（記念碑）
を制作します。入江さんと一緒に自分だけの作品を作っ
てみましょう。



・寄り合い ～やってみたいことを手さぐってみる～

2025年8月23日（土）、10月4日（土）

各回 14:30～15:30

参加費：無料 ※予約不要

はじまりの美術館で開館前からこつこつと実施してきた「寄り合い」。

美術館を軸に様々な活動に取り組む場です。初回はやってみたいことをみんなで話し合い、今後の活動につなげていきたいと思っています。どなたでも参加可能です。

・こどものにわワークショップ「“ごとうつち”で泥だんご！猪苗代の土どんな土？」

2025年8月24日（日）14:00～15:30

講師：櫛田拓哉（出展作家・美術家・こどもアートディレクター）

参加費：200円

定員：10名 ※事前申込優先

出展作家である、こどものにわ代表の櫛田拓哉さんをお招きしたワークショップです。

はじまりの美術館でわくわく楽しい表現活動と一緒にやってみましょう。

今回は、猪苗代の土を使って、みんなで泥だんごを作ります。



・トークイベント「こつこつと続けること」

2025年9月7日（日）16:00～17:30


ゲスト：板垣崇志（るんびにい美術館アートディレクター）、
岡啓輔（建築家）

参加費：1000円（展覧会観覧料込）

定員：20名 ※要予約

出展作家である似里力さんが所属するるんびにい美術館のアートディレクターの板垣崇志さんと、東京の三田で「蟻鱒鳶ル（ありますとんびる）」をセルフビルドで建てた建築家の岡啓輔さんをお招きしてトークイベントを開催します。似里さんが続けていること、そして岡さんがコツコツと完成させたもののお話から、福祉や表現について考えていきます。

広報用画像ご希望の方・取材をご希望の方は、はじまりの美術館までご連絡ください

お問い合わせ先：  はじまりの美術館（広報担当：大政）

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873

TEL：0242-62-3454

FAX：0242-23-8185

Mail：otoiawase@hajimari-ac.com